郷土摂津 いにしえ通信

第４２号　平成１３年１０月１日

発行　摂津市教育委員会　生涯学習部生涯学習課

〒５６６－８５５５　摂津市三島一丁目１－１

℡（０６）６３８３－１１１１　℡（０７２６）３８－０００７

ホームページアドレス　http://www.city.settsu.osaka.jp/

第７回 １０月 運動会

わがまち ちょっと昔の生活

戦争が始まると、運動会も軍事色が強くなり、昼からの種目に軍人会は銃剣術の競技、青年学校の生徒は軍事演習をおこないました。

←昭和18年の運動会･軍服姿も見えます。

戦後しばらくは、青年会の仮装行列が人気がありました。地域対抗なので、いろいろ工夫して、観客を喜ばせ運動会を盛り上げました。昭和３０年代には、子ども中心の運動会になりました。

←昭和24年千里丘での仮装行列

戦後の何年か、小学校の運動会で仮装行列が盛んに行われたようです。

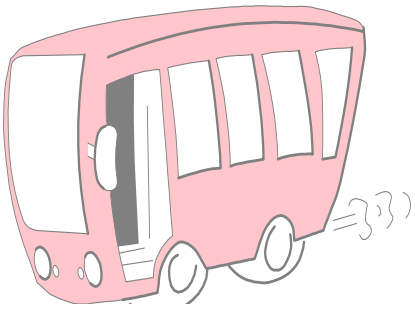
摂津市では（聞き取り調査から）

戦前の学校の運動会は、大人たちの楽しみでもありました。朝早くからゴザなどで場所取りをしました。午前は、学校の子どもの運動会、午後からは地域の大人の運動会となったところが多くありました。村の対抗戦があるので、馬力を飾りたてて応援に行き、羽織袴で応援合戦もしたようです。昼食は、ゴザの上で子どもも大人もいっしょに食べました。鳥飼地区では、村対抗の俵担ぎリレーがあり、村でも一・二の力持ちが選ばれました。三宅地区では、祭りの次の日が運動会で、祭で実家へ帰ってきた人も運動会を見にきました。

講座や展示のご案内、活動報告など多彩な文化財情報を毎月お知らせします。
また、このページでは皆様の投稿を募集しています。

播磨路の文化にふれる旅

「福崎・加西の民俗をたずねて」



月　　日　平成13年１１月６日（火）
出発時間　午前８時３０分
集合場所　摂津市民文化ホール前
解散時間　午後４時３０分予定
参 加 費　５，０００円（昼食代・入館料等を含む）
定　　員　４０名
主　　催　摂津市文化財愛護会
後　　援　摂津市教育委員会
備　　考　雨天決行（ただし、注意報・警報の場合は延期）
参加費は当日徴収

コ ー ス

市民文化ホール → 吹田IC → 福崎IC → 柳田國男生家・同記念館 / 福崎町歴史民俗資料館 / 大庄屋三木家 → もちむぎの館（昼食） → 福崎IC → 加西IC → 五百羅漢他 → 加西IC → 吹田IC → 市民文化ホール

申し込み

官製はがきに①氏名②住所③郵便番号④電話番号⑤バスツアー参加と記入の上、下記まで。
〒５６６－００２４　摂津市正雀本町１－３０－３　橋本秋作　宛

郷土史コーナー

意外と身近な郷土の歴史を紹介していきます。

味生（あじふ）の歴史

鯵生野（あじふの）の開削

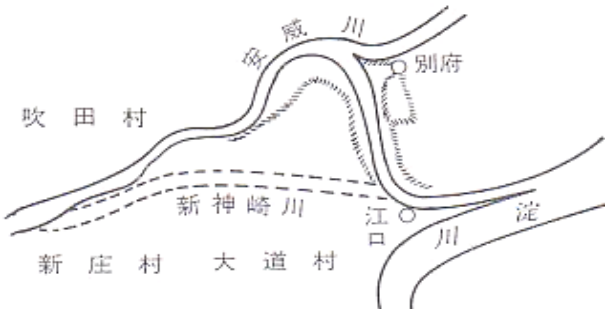
宝亀三年（７７２年）及び延暦三年（７８４年）の大洪水の後、延暦四年正月に、桓武天皇は、「使を遣わして摂津国神下（かみしも）・梓江（あずさえ）・鯵生野を掘りて、三国川に通ぜしむ」（『続日本紀』）とあり、淀川の分流工事を着工させています。淀川と三国川（神崎川）を直結する河道の開削です。

古代の三国川は、現在と違って、淀川とは全く別の水系でした。その上流は丹波国に発して安威（茨木市）に至るところから安威川と称し、鳥飼上淀川と並行し、茨木川を合わせて、下流を三国川・神崎川と呼び、尼崎から大阪湾に流出していました。そこで、この三国川と淀川を直結する工事が企てられました。その河道は、江口（大阪市東淀川区）付近で淀川から分かれて、北流して別府の西を通り、味舌浜で安威川に会合する、長さ１５００ｍ強のものであったと考えられます。

桓武朝のこの工事は、比較的水量の少ない三国川へ淀川の水勢を分殺しょうとの目的であったと考えられますが、延暦四年正月が長岡遷都の二ヵ月後であることから遷都に関連する工事であったとも考えられます。現に、その後、西国から平安京に出入する船は難波津を経ず、航路の短い三国川経由で淀川へ入る船が増加し、都と西国を結ぶ水上交通路として大きな働きをなす結果となりました。しかし、淀川の治水面からこの工事の結果をみれば、残念ながら、延暦九年には早くも大洪水があり，新水路の完成も効果がありませんでした。

延暦七年（７８８年）には摂津大夫であった和気清麻呂が、淀川の負担軽減をも考慮して「河内・摂津両国の堺に川を掘り、堤を築き、荒陵（あればか）の南より、河内川を導きて西の方，海に通ぜん」（『続日本紀』）と新工事を言上し、２３万人を徴発して着工しましたが、その工事は不成功に終わりました。その後も、水害防止に努めてはいましたが，治水の問題は宿命的な自然と人間との対決として、ながく政府を悩ませ、その惨害は住民を苦しめました。

この水路は、明治初期の神崎川の付け替えまで続きました。現在の味府神社の前を通っている道が三国川の堤の跡です。　　「摂津市史」より　　担当　（茗荷）



←淀川分水図
「神安水利史・本文編」より
昭和55年　神安土地改良区編

第７回　埋もれた摂津市の歴史

発掘調査で明らかになっていく摂津市の埋もれた歴史をシリーズで紹介していきます。

平成９年度　蜂前寺跡　１次調査

瓦について(２)

前回は瓦について一般的な説明をしました。今回は平成９年度蜂前寺跡（千里丘３丁目）における発掘調査で出土した瓦について説明します。

拓本

←島谷稔氏所蔵
摂津市史史料編(一)

←蜂前寺跡１次調査
出土軒平瓦

軒平瓦　中央に五弁の蓮華文を配し、左右に波状唐草文を展開しています。このときの調査では半固体分でした。以前、近接する金剛院で採集された資料と同じ型でつくられたものと思われます。

瓦の製作技法について

①

②

↑蜂前寺跡１次調査出土丸瓦

凹面の布目痕　丸瓦の凹面をよく観察しますと布目が残っています。これは製作する時円筒状の型に布を被せ、粘土板を巻きつけて成形していたからです。平安時代は細かく、以降粗くなります。今回出土した丸瓦①②ともに粗い布目が確認できました。

凹面の吊り紐痕　この時代の丸瓦の内面には破線状やループ状に垂らした紐痕が見られます。この痕跡は丸瓦①で確認できました。円筒状の型と丸瓦をはずす際に、上部から引き上げるためと考えられています。吊り紐痕は 13 世紀以降に見られ、弱く垂らすものから 14 世紀には強く垂らすものが表れます。写真の丸瓦は強く垂らす部類に属します。

凹面の内叩き痕　丸瓦②の内面に工具で叩いた痕跡が見られます。通常工具の端で叩いた豆粒状のものが 15 世紀に、工具側面で叩いた棒状のものが 16 世紀以降に見られます。丸瓦②には豆粒状に叩いた痕跡が残っていました。

担当　（伊部）